

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名：臨床研修部 小西 真紅子

【研究責任者】

聖路加国際病院 臨床研修部 小西 真紅子

聖路加国際病院 消化器・一般外科 藤川 葵

専門職大学院公衆衛生学研究科 小林 大輝

腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における 経皮的鏡視下腹壁神経ブロックの有用性の検討

1.研究の対象

2015年4月1日～2018年5月31日に当院で腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を受けられた方。

2.研究の目的・方法

もともと当院消化器・一般外科では、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の術後の痛みを予防する目的で手術終了間際に局所麻酔薬の皮下注射を行っていましたが、2017年5月より局所麻酔薬の投与方法を変更しております。具体的には、腹腔鏡で腸管などの臓器を観察しながら内腹斜筋および腹横筋と呼ばれる筋肉の間などに局所麻酔薬を注入するというもの(経皮的鏡視下腹壁神経ブロック)です。この方法を導入してから約1年が経過し、麻酔薬投与方法を変更したことの有用性について検討すべきと考え、この研究を企画致しました。

なお、この調査では通常保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2019年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

≪情報≫カルテ番号、性別、生年月日、BMI、術式、麻酔方法、術後の疼痛の程度、副作用発生の有無 等

≪試料≫特になし